第４学年　図画工作科学習指導案

１　題材名　「いのちをまもる場所　～枝灯ろうをつくろう～」

２　題材の目標

○木の材料を適切に扱うとともに、接着の仕方などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表す。【知識及び技能】

○枝や自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げる。【思考力、判断力、表現力等】

○木の枝を組み合わせて、枝灯ろうを工夫してつくる活動に進んで取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、形や色などに関わり楽しく豊かな生活を創造しようとする。【学びに向かう力、人間性等】

３　題材の評価規準

知識及・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○木の材料を適切に扱うとともに、接着の仕方などについての経験を生かし、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。	○形や色の感じ、組み合わせによる感じなどを基に、自分のイメージを持ちながら、枝や自分たちの作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。	○つくりだす喜びを味わい進んで枝を組み合わせて、枝灯ろうを表す学習活動に取り組もうとしている。

４　単元と指導の構想（全５時間）

児童は、これまでの『おかえり＊灯りぷろじぇくと』※１で、造形遊びとしてローラーやスタンプで色や模様を付けた和紙を使って紙灯ろうをつくって、体育館いっぱいに展示された灯ろうを鑑賞することを楽しんできた。しかし、『おかえり＊灯りぷろじぇくと』の意図について深く考えたり、自分のイメージを表したりすることを、意識することはあまりなかった。

今年度は、『おかえり＊灯りぷろじぇくと』に込められた２つのテーマ（「放流したサケの稚魚が広い海で大きく育ち、新津川に戻ってきてほしい。」「子どもたちが広い世界で大きく成長し、やがて新津に帰ってきてほしい。」）を理解し、より主体的に灯ろうづくりに取り組んでほしいと考えた。そこで、４年生が総合的な学習の時間にサケの卵や稚魚を飼育し、新津川に稚魚を放流することと関連させ、サケの命を守る場所として枝灯ろうをつくることで、自分のイメージを持ちながら、形や色の感じ、組み合わせによる感じなどを基に、自分の見方や感じ方を広げていくことを目指す。

児童は、４月に広告紙を細く丸めた棒を組み合わせてタワーをつくった経験がある。グループの仲間と協力しながら、三角形をもとに組み合わせて立体をつくると倒れにくく丈夫になることを学習している。今回は、自然物である木の枝を材料として使うことで、様々な枝の形や色・ぬくもりなどを生かしながら、自分や友達の作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、工夫して表現する姿を期待する。

5　指導と評価の計画（全４時間）

		【評価の方法】			【規準を具体的な姿でいうと】
時間	ねらい・学習活動	知・技	思	態	子どもの具体的な姿のイメージ（Ｂ評価）
0	○総合的な学習の時間に育てるサケの卵や稚魚について知る。（総合的な学習の時間）			○	・総合的な学習の時間に育てるサケの卵や稚魚について知る。
1	○『おかえり＊灯りぷろじぇくと』の意図を知り、枝灯ろうづくりについてイメージをもつ。 ・昨年度の灯りぷろじぇくとの作品を鑑賞する。 ・自分がつくりたい枝灯ろうのイメージをもつ。		○ タブレット	○ 観察	・自分がつくりたい枝灯ろうのイメージをもつことができる。（タブレット）
2	○ライトを包む和紙にイメージに合わせて色や模様を付ける。 ・筆やローラー、スタンプなどを使って和紙に色や模様を付ける。	◎ 作品	◎ タブレット	○ 観察	・命のイメージを表すために、和紙に色や模様を付け、工夫して表現している。
3 4	○ビニールテープを使って枝と枝を接着する方法を理解する。 ・枝に触れる。 ・土台となる三角形をつくる。 ・土台の上に 3、4 本使って灯ろうの骨組みをつくる。 ○枝灯ろうに枝を付け足す。 ・自分の灯ろうのイメージに合わせて枝を付け足す。	○ 作品	◎ タブレット	○ 観察	・友達と協力しながら、枝灯ろうの土台をつくることができる。 ・イメージを表すために、枝を組み合わせて、工夫して表現している。
5 本 時	○木の枝の組み合わせ方について、いろいろな方法を試したり、友達の組み合わせ方のよさに気付いたりすることで、自分のイメージを広げ、工夫して枝灯ろうをつくる。	◎ 作品	◎ タブレット	○ 観察	・イメージを表すために、枝の組み合わせを試したり、ライトを置く場所を考えたりして、工夫して表現している。

6　本時の計画（5 時間目／全 5 時間）

（1）ねらい

木の枝の組み合わせ方について、いろいろな方法を試したり、友達の組み合わせ方のよさに気付いたりする活動を通して、自分のイメージを広げ、工夫して枝灯ろうをつくることができる。

（2）構想

第 2 時では、自分のつくりたいイメージに合わせてライトを包む和紙の模様付けをしている。第 3・4 時

では、まず枝を使って土台となる形づくりを行い、枝に触れるとともに、基本的な枝の組み方や接着の仕方を学習し、灯ろうの骨組みづくりを行っている。その後、つくりたいイメージに合わせて枝を２～３本程度付け足している。

本時では、もっと自分のイメージが伝わるような枝灯ろうにするには、どんな工夫があるかを発問し、イメージの表し方に着目させる。前時の振り返りでシンキングツールのＹチャートに、自分のイメージと、製作途中の枝灯ろうの画像とイメージを表すために工夫したことを記録し、提出させている。

導入のミニ鑑賞会では、工夫したことを隠したＹチャートを提示する。Ｙチャートの中の枝灯ろうのイメージと、友達の作品の写真を見ながら、イメージを表すための友達の工夫を見付けることで、工夫の観点を増やすとともに、自分ももっと工夫したいという意欲を高めたい。また、「光のお試しタイム」を設定し、ライトを点けたときの見え方を試し、イメージを膨らませたり、近くの友達の作品を見合ったりすることで、自他のよさや面白さに気付き、さらに表現を広げていきたい。

（３）展開（60分）

学習活動	教師の働きかけと予想される児童の反応	■評価　　○留意点
１　前時までの振り返りと課題を把握する。 （３分）	T1　サケの命を守る場所をどんなイメージでつくっていますか。 C1　サケの卵を敵から守る場所にしたい。 C2　サケの赤ちゃんの隠れ家にしたい。 C3　サケの赤ちゃんに楽しんでもらえる場所にしたい。 T2　イメージに合わせてつくり始めましたね。どんな工夫をしていますか。 C4　隠れ家になるように、枝で囲んでいます。 T3　いい工夫ですね。まだ、どうしようか迷っている人はいませんか。 C5　どうしようかな。どんな隠れ家にしようかな。 T4　迷っている人もいますね。みんなでどんな工夫をしたらいいか考えて行きましょう。 〈学習課題〉 もっと自分のイメージを表すには、どんな工夫をしたらいいだろうか。	○サケの卵や稚魚をイメージしやすいよう画像を用意する。 ○活動に十分な場所を確保するため体育館で行う。 ○導入で話し合うときは、前方に集まる。
２　ミニ鑑賞会をして、友達の工夫を見つける。（５分）	T5　これまでつくった枝灯ろうのミニ鑑賞会をして、友達の工夫を見付けましょう。 C6　Ａさんは卵を守るために枝を並べて囲んでいるね。 C7　Ｂさんは赤ちゃんのベッドを短い枝を重ねてつくっているね。 C8　Ｃさんは枝を高く伸ばして上に遊び場をつくったんだね。 C9　横にしてライトを置くと、サケの赤ちゃんみたいだ	○前時の振り返りで提出したＹチャートの工夫したところを隠したものをいくつか提示する。※２ ○イメージと写真を見ながら、友達の工夫を見付けさせる。 ○枝灯ろうのイメージを表す

	ね。 C10　Dさんは敵に壊されないように太い枝を選んでいるね。 T6　いろいろな工夫が見付けられましたね。枝だけでなく、ライトの置き方にも工夫がありましたね。	ための工夫に着目させる。 〇隣の人と相談して工夫を見付けさせる。
3　工夫について確認する。 （2分）	〈まとめ〉 枝をまとめる・短い・長い・高い・低い・太い・細い枝の組み合わせや数、ライトの置き方を工夫するといい。	〇子どもから出た意見を基にまとめをする。
4　試しながら作る。 （40分）	T7　友達の工夫を参考にして、枝の組み合わせを試しながら、もっとイメージが伝わる枝灯ろうをつくりましょう。 C11　〇〇さんのアイディアがおもしろいな。 C12　ぼくも〇〇を組み合わせてみよう。 C13　二階建てにして遠くまで見える家にしようかな。 C14　短い枝を重ねて卵のベッドにしようかな。 C15　太い枝を使って丈夫で敵におそわれないようにしよう。 C16　枝を斜めにして滑り台みたいにしよう。 C17　細い枝をしならせて赤ちゃんの遊び場をつくろう。 T8　「灯りのお試しタイム」です。これから少しの間、部屋を暗くします。ライトをつけて試したり、近くの友達と見合ったりしましょう。 C18　ライトの置く場所をここにするとすてきだな。 C19　卵が守られている感じがしていいね。 C20　ライトを高いところからぶら下げたらどうかな。 C21　わたしも〇〇を付け足してみよう。 T9　「灯りのお試しタイム」を終わります。もっとこうしたいと思ったことや続きをつくりましょう。 C22　ライトを置く場所を変えてみよう。 C23　枝をたしてもう一つ部屋をつくろう。	〇見通しをもたせる。 〇活動するために十分な材料を確保する。 材料：枝・透明ビニールテープ・はさみ・グルーガン・麻紐 〇枝は種類ごとに分けて置く。 〇友達と見合えるように班の形態で行う。 〇「灯りのお試しタイム」を設定することで、ライトを点けたときの見え方を試し、イメージを膨らませる。 〇途中で友達の作品を見合うことでよさや面白さに気付き、取り入れられるようにする。 ■つくりたいもののイメージを表すために、工夫してつくっている。 （観察・発言）
5部屋を暗くしてお互いの作品を鑑賞する。 （5分）	T10　最後につくった灯ろうをみんなで見合いましょう。部屋を暗くします。 C24　わあきれいだね。教室が新津川になったみたいだね。 C25　いろいろな形の灯ろうがあるね。 C26　卵が守られているみたいだね。	

6 振り返りを書く。（5 分）	C27　灯りを点けるとサケが遊んでいるみたいだね。 T11　みんなの思いが伝わる素敵な枝灯ろうができましたね。今日の振り返りをしましょう。 ・サケの卵が安心できる家をつくりました。枝を何本も重ねて、ふかふかのベッドにしました。ライトを点けたら、卵が生きているみたいでした。（A） ・サケの赤ちゃんが楽しく遊べる家にしました。二階の部分にライトを置いて赤ちゃんが遊具で遊んでいるみたいにしました。（A） ・枝を組み合わせて枝灯ろうをつくりました。ライトをつけたらきれいでした。（B）	■自分のイメージを表現するために工夫したことを書いている。（ロイロノート） 〇Ｙチャートに写真と今日自分がした工夫を書いて提出する。

(4) 評価（振り返りカードの記述・作品）

A　自分のイメージを表すために、枝の組み合わせ方を工夫して、枝灯ろうをつくることができる。

B　枝を組み合わせて、枝灯ろうをつくることができる。

(5) 板書計画

サケの命を守る場所　→　どんな枝灯ろうにしたいか

サケの卵の写真

サケの稚魚の写真

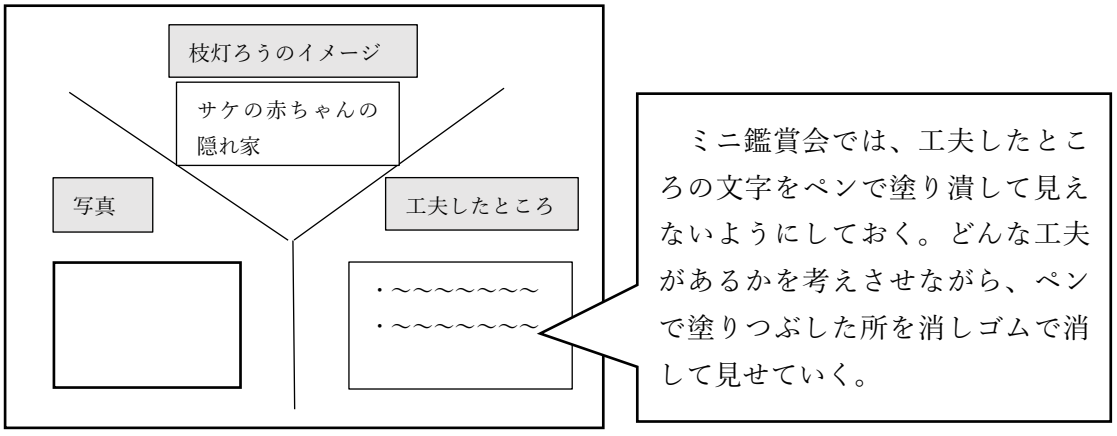
・卵を敵から守る場所
・赤ちゃんの隠れ家
・赤ちゃんが楽しく遊ぶ場所

学習課題
　もっと自分のイメージを表すには、どんな工夫をしたらいいだろうか。

まとめ
・枝をまとめる
・長い・短い
・高い・低い
・太い・細い
　枝の組み合わせや数
・ライトの置き方　を工夫するといい。

※1　『おかえり＊灯りぷろじぇくと』とは、「おかえり」をテーマに全校児童がつくった灯ろう約 400 個を体育館に展示して、思いや願いを他者や社会に伝えようとする活動である。この活動を通して、児童が自分の住む町への思いを深め、よりよい未来を作ろうとする姿を目指している。

※2　Ｙチャート（ロイロノート）



7　参考文献・資料

教育美術 2022 年 4 月号　授業実践　アートでつながる地域と学校『おかえり＊灯りぷろじぇくと』
新潟県新潟市立新津第二小学校　校長　渡辺　富美子